

令和4年8月3日

日立造船株式会社  
取締役社長兼 CEO 三野禎男 殿

日本野鳥の会奥会津連合  
事務局長 渡部 康人  
福島県南会津郡南会津町田島字行司 117  
連絡先 0241-62-4103

公益財団法人 日本野鳥の会  
理事長 遠藤 孝一  
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル  
(公印省略)

### (仮称)会津大沼風力発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見書

下記の理由により、(仮称)会津大沼風力発電事業(以下、本事業という)は計画段階環境配慮書(以下、本配慮書という)に記載されている事業実施想定区域(以下、計画地という)および周辺地域の鳥類の生息環境を破壊するため、本配慮書を取り下げ、本事業を廃止することを強く求める。

#### 記

#### 1. オオジシギ *Gallinago hardwickii* について

今年7月、国際自然保護連合(IUCN)はオオジシギの個体数が30%ほど減少していることから、レッドリストのランクをLC(低懸念)からNT(準絶滅危惧)に引き上げたばかりである。『駒止湿原の生物相』(福島大学 2014年2月)によれば、天然記念物「駒止湿原」に2つがいのオオジシギ *Gallinago hardwickii* の繁殖地を確認している。計画地周辺の駒止高原には、同様な湿原環境が大窪林道周辺に存在しており、未調査ではあるが、駒止高原の周辺もオオジシギの繁殖地になっていると推定される。本州におけるオオジシギの繁殖地は減少傾向にある。一方、国内ではオオジシギのバードストライクが発生している(浦 2015)ことから、風車の建設によるオオジシギへの影響は避けられないと考える。

#### 2. ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* について

- ・計画地の東端にある博士峠から博士山にかけての地域で活動する狩猟者に対する聞き取りでは、ニホンノウサギの繁殖は冬期(2月~3月)に、標高1,000m~1,484m(博士山山頂)の尾根部の北側、雪庇を避けた側、表層雪崩・全層雪崩を避けた側の尾根部にある樹木下の雪洞で第1回目の繁殖(出産)をしている。厳冬期には雪崩を避け、尾根部に集まっており、それは交尾を含む繁殖に連動している。この習性を利用し、尾根部でウサギ猟(巻き狩り)が行われてきた。融雪後、2回繁殖し、年に3回繁殖するが、冬期の繁殖に尾根部に風車が立ち、稼働すれば大きな影響が出ると考える。また建設工事も大きな影響を与えられらる。
- ・ニホンノウサギがクマタカ *Nisaetus nipalensis* やイヌワシ *Aquila chrysaetos*、ノスリ *Buteo japonicus* 等の生存を支えており、また、この他では、肉食性哺乳類もニホンノウサギに依存している。しかしながら、ニホンノウサギについての調査、影響に関する記述が本配慮書にはまったく不十分である。

#### 3. イヌワシ *Aquila chrysaetos* について

- ・本事業は、博士山のイヌワシの行動圏内に計画されていることから、風車の建設によりバードス

トライクが発生するなど、大きな影響を与える。

- ・新潟県・福島県の県境地帯である奥只見地域には日本イヌワシ研究会の調査で 13 つがいのイヌワシが確認されている(日本イヌワシ研究会「第 27 回合同調査報告(奥只見地域)」(『日本イヌワシ研究会誌 Aquila chrysaetos』第 12 号、日本イヌワシ研究会 1996 年)。
- ・本事業予定地は、奥只見地域と博士山(昭和村・柳津町・会津美里町)、下郷町又見山(営巣地・繁殖地)をつなぐ「緑の回廊」であり、西から東に、イヌワシ亜成鳥の移動が観察されている地帯となっている。その飛行路に風車や送電線鉄塔が新たに建設されれば大きな影響が出る。また夏秋の子育て期のイヌワシの利用域となっていると推定される。この他に季節性の渡り鳥類の南北の移動路にもなっており、大きな影響を与える。

#### 4. クマタカ *Nisaetus nipalensis* について

- ・計画地とその周辺では、かねてよりクマタカの繁殖が知られている。
- ・1990 年代後半に福島県による 3 カ年の調査(日本野鳥の会会津支部)でも 32 つがいが推定された(非公開資料)。会津森林管理署により近年実施された同様の調査においても、南会津郡内では多数のクマタカが確認され、数カ所の営巣地を持つことが知られている。こうしたことから、本事業による影響(搬入路建設・風車設置・送電線鉄塔設置・稼働後)は大きなものと考えられる。風車の建設がクマタカの繁殖自体に影響を与えるほか、自然改変による生態系全体への影響(生物相の変化等)が上位捕食者であるクマタカへ与える影響は大きい。
- ・また、県内各地の道路工事の中でクマタカ等のモニタリングが行われているが、クマタカが高密度で生息している地域では、隣接つがいの存在によって工事個所に生息するクマタカが近隣に避難することが困難になり、離れた場所への移動を余儀なくされている状況である。上記のように計画地周辺はクマタカが高密度で生息しており、影響は免れない。
- ・クマタカは秋から初冬期にかけて尾根上部で、上空まで飛翔しディスプレイフライトを繰り返すため、風車や送電線が新設されれば、大きな影響を受ける。

#### 5. 緑の回廊について

- ・本事業予定地には、「会津山地緑の回廊」が約 19.8 平方キロメートル含まれている。緑の回廊については森林の有する公益的機能を維持し増進させる責務が、「国有林野の管理経営に関する法律」第 3 条によって生じる。
- ・このことから、緑の回廊を除外した事業計画を本来検討すべきである。

以上